

第二回中間報告

(2016年12月27日～2017年3月31日)

国際ロータリー第 2710 地区
2016-2017 年度 グローバル補助金奨学生
石川祐実

1. 報告書提出日：2017年4月3日 第二回報告

2. 基本情報

- ・ 氏名：石川祐実
- ・ 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：徳山ロータリークラブ、守政和浩様
- ・ 受け入れホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Redbridge, Mr. Tony Betts
- ・ 教育機関：キングスカレッジ・ロンドン
- ・ 専攻分野：国際保健（医療従事者教育）

3月も終盤を迎え、日の入りまでの時間が長くなりました。暖かい日が多くなり、街のいたるところで桜が咲いています。3月で全ての授業が終了し、4月からは2学期に履修した授業の課題の提出と試験、そして修士論文の執筆が本格的に始まります。今回の第二回報告では、2学期に履修した授業を中心にロンドンでの大学院生活と、同期間に参加したロータリーの活動を中心にお伝えします。(写真はクラスメイトと授業終了のお祝いの様子)



3. 学業面での成果

Principles of Education for Health Professionals

1学期に履修した Principles of Education for Health Professionals の教育実習が2学期に行われました。この教育実習では受講生全員でキングスカレッジ・ロンドン医学部1年生¹の国際保健のモジュールを1学期間担当しました。各授業は3時間の構成で、私は非感染症疾患の授業を担当しました。講義では主に非感染症疾患の基本知識、感染症疾患から非感染症疾患への疫学的移行とそれが発展途上国及び先進国のそれぞれに与える影響について扱い

¹ 第一回報告では2年生としましたが、医学部生の履修状況の関係で1年生に変更となりました。

ました。グループディスカッションでは、先進国と途上国の糖尿病患者のケースを比較し、途上国での非感染症疾患の抑制方法とその課題について取り上げました。当日の授業は大成功でした。当日出席した医学部生は 24 人で、全員意欲的に授業に参加してくれました。授業前後に行った小テストの結果からも授業を通して非感染症についての知識が身についたことが確認できました。実習の審査をしていた先生からも「インタラクティブな授業でとてもよかった」と言っていました。一方で予想以上に学生の反応が良く、授業が早く進み、予定時間より早く終わってしまいました。今後はグループディスカッションの内容を当日の学生の理解度に合わせて変えられるよう、複数パターン用意しようと思います。

2 学期は専攻分野のモジュールから **Health Professions Education in Low and Middle Income Countries** を、コース共通のモジュールから **Conflict and Health** 及び **Global Health in Local Practice** を、そして 1 学期から引き続きフランス語の授業を受講しています。以下では今学期の主なモジュールである **Health Professions Education in Low and Middle Income Countries**、**Conflict and Health** 及び **Global Health in Local Practice** についてそれぞれご報告させていただきます。

Health Professions Education in Low and Middle Income Countries

このモジュールでは、発展途上国における、医療人材不足の現状とそれに対する対応策、医療人材教育の課題、途上国と先進国の協力体制の評価及び医療人材教育としてのイーラーニングの評価について学びました。グループ課題では、**Lancet** で発表されたミャンマーのイーラーニングプロジェクト²に応募するため、イーラーニング教材の開発に取り組みました。このプロジェクトは、オスロ大学を中心とするプロジェクトチームでミャンマーの医学部生が利用できるイーラーニングの図書館を作ろうとするものです。私のグループのテーマは、高齢化社会における公衆衛生の課題です。教材では、ミャンマーと高齢化、高齢になり健康を損なった際に生じる個人、家族そして国家の課題、健康寿命について、健康寿命を延ばすために必要なサポートについて扱いました。ただ情報を伝えるだけでなく、ケーススタディを取り入れ、なるべく自発的な学習ができるよう工夫をしました。

このモジュールは、開発したイーラーニング教材のプレゼンテーション(50%)及び発展途上国における医療人材教育としてのイーラーニングの評価についてのエッセイ(50%)で評価されます。

Conflict and Health

このモジュールでは、現代の紛争が起こる原因、紛争が健康、ヘルスシステム及びセキュリティに与えるインパクトの評価について学びました。講義では紛争の原因についての主

² [http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(16\)32520-X/fulltext](http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(16)32520-X/fulltext)

なセオリーが紹介されました。グループ課題では、グループごとに国を割り当てられ、その国についてのケーススタディを行いました。私はシリアグループでした。ケーススタディの課題は、(1) 当該国の紛争の背景、原因についてセオリーを用いて論じなさい、(2) 当該国のヘルスシステムとヘルスアウトカムに紛争が与えた影響を論じなさい、(3) 当該国の紛争の解決戦略について論じなさい。紛争の原因については **Authoritarianism** を用いて分析を行い、この紛争の特徴としてヘルスシステムと市民への攻撃を挙げました。その後、ヘルスシステムへの攻撃については医療人材と医療施設の紛争前と現在のデータを示し、市民への攻撃については紛争における死亡数、避難者数、国内にとどまっている市民のヘルスシステムへのアクセス状況を示しました。ヘルスシステムへの攻撃と市民への攻撃の結果として、ヘルスアウトカムのパートでは、非感染症、感染症（ポリオ、麻疹、リーシュマニア症）、外傷及びメンタルヘルスについて紛争前と現在でどのように変化したかを示しました。最後に解決戦略については権限分割案について紹介しました。

このモジュールは、グループプレゼンテーション(40%)及びグループ課題とは別の国でのケーススタディエッセイ(60%)で評価されます。

Global Health in Local Practice

このモジュールでは、国際保健の問題が地域の病院でどのように起こっているのかを学びました。講義では医療人類学の主なセオリーとそれに当てはまる事例が紹介され、受講者は一人ずつ地域のセクシャルクリニックで問診を見学しました。グループ課題では、それぞれが見学した内容を共有し、「移民、文化、スティグマ及び権利はセクシャルヘルスの問診にどのような影響を与えますか」という課題に取り組みました。私たちのグループは、患者が医者からのアドバイスを受け入れない場合の原因を **Arthur Kleinman** の説明モデルなどを用いて分析しました。

このモジュールは、グループプレゼンテーション(30%)及び自分自身が見学した問診の分析についてのエッセイ(70%)で評価されます。

4. 受入地区でのロータリーとの関わり

2月21日に Rotary Club of Redbridge の定例会にてプレゼンテーションを行う機会を与えていただきました。まず、日本について、広島、山口、徳山について、家族について紹介したのち、国際保健に関心を持ったきっかけやこれまでの取り組み、キングスカレッジ・ロンドンでの大学院生活、今後の抱負をお話ししました。プレゼンテーション後は徳山ロータリークラブと Rotary Club of Redbridge のバナーの交換を行いました。フロアからは「熱心に勉強している様子が分かって嬉しいです。世界の健康のために今後も頑張ってください」と声をかけていただき、Rotary Club of Redbridge 会長の Melvyn さんからも「ありがとう。また Rotary Club of Redbridge でお話してください」と日本語でお言葉をいただきました。(写真は Melvyn さんとのバナー交換の様子)



5. 直面した課題 / 今後の課題

今学期はどのモジュールでもグループワークの比重が高く、多くの時間をグループワークに費やしました。私の所属する国際保健コースは、学部から直接進学したクラスメイトが少なく、ほとんどが他のマスターや医療現場で数年の経験を経たのちに來ています。それぞれのアカデミックなスタイルがある程度確立されているからこそ意見が衝突し、まとまらないまま何時間も時間が経ってしまうことが多々ありました。そしてこのような場面ではやはり英語力に応じて発言力が決まってしまうことを痛感しました。十分に準備をしてディスカッションに臨んでも、ネイティブの学生が会話の主導権を握っている場合が多いため、自分のタイミングで発言できず、意見も採用されませんでした。会話の流れができてしまう前に、誰よりも早く意見を示す、主張したいことが伝わりやすいように毎回パワーポイントを用意してディスカッションに臨むなど試行錯誤を重ねました。ディスカッションの回数を重ねるごとにお互いの発言意図が分かるようになり、また課題の提出期限が迫ったこともあり、最終的には少しずつ交渉しあって全員が納得するプレゼンテーションをまとめることができました。しかし、これが最初の1回のディスカッションで仕上げる課題であったら、私はグループに貢献できていなかったと思います。意見が異なるグループのなかでどのようにコミュニケーションをとればよいのか、これを今後の課題として練習していきたいと思います。